

IPO銘柄 アセンテック (3565・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3565	100 株	公募: 12.00 万株 売出: 29.00 万株 (OA4.10 万株)	1,840 円 ~ 2,000 円 (18.6 倍)	SBI 証券



仮想デスクトップビジネスを展開

■ 事業内容

ITインフラ事業として、仮想デスクトップビジネス、仮想インフラおよびストレージビジネス、プロフェッショナルサービスビジネス、クラウドサービスビジネスを手掛ける。主力は仮想デスクトップビジネスで、全体の60%程度を占める。主に仮想デスクトップソフトを提供するシトリックス・システムズ・ジャパンの1次代理店として事業を展開。仮想インフラおよびストレージビジネスでは高速、低消費電力、高寿命のフラッシュストレージ提供を手掛ける。プロフェッショナルサービスは、同社システムの導入企業に対し、技術支援サービスを展開。一方、仮想デスクトップビジネスが大企業、官公庁向け中心であるのに対し、クラウドサービスは社員10～50人程度の中小規模事業者向けにサービスを提供している。ITインフラ事業の単一業態。

■ 特徴

仮想デスクトップとは、デスクトップ環境を個々のユーザーの使うパソコン、タブレットではなく、サーバー側に集約し、デスクトップ画面イメージをネットワークを通じ配信することにより、パソコン、タブレットなど個々の情報端末でユーザーが利用するというソリューションのこと。端末にデータを保存しないため、セキュリティ性が向上する上、システム管理者もシステムの集中管理が可能になる。

アナリストコメント

■ 定量分析

18年1月期の非連結経常利益は前期比6.5%増の2億3,200万円を計画する。主力の仮想デスクトップビジネスは小幅増ながら、仮想インフラおよびストレージビジネスが大きく伸びる見込みにある。ただ、収益規模や利益成長率にはやや物足りない印象も。

■ 定性分析

サイバーセキュリティ関連として、強力なテーマに乗る。IPOマーケットでサイバーセキュリティ関連銘柄の注目度は高く、仮条件は目論見書記載の想定発行価格1,720円を大きく上回る水準に設定されている。事前人気の高さが話題となりそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は9億円程度。ベンチャーキャピタルは1社保有で市場に流出しづらくなっている。ゴールデンウィーク休み前最後の案件となる可能性があることから、その後のIPO空白期を前提に人気を集める可能性がある。(小泉健太)

■ 類似企業

アセンテック(3565・マザーズ)	予想PER18.6倍 (仮条件上限)
ソリトンシステムズ(3040・東証2部)	予想PER20.9倍
デジタルデザイン(4764・JASDAQ)	予想PER —

■ 引受証券

SBI証券、みずほ証券、ニューズ証券、極東証券、藍澤証券、岩井コスモ証券、SMBCフレンド証券、東洋証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年1月期(実績)	2,180	▲16.2	1	▲96.6	-2	赤転	-1.6	0.0
17年1月期(実績)	3,275	50.2	217	—	140	黒転	100.7	0.0
18年1月期(会社予想)	3,800	16.0	232	6.5	160	14.2	107.3	0.0

※16年12月に株式分割(1株→50株)を実施。16年1月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年1月期	27,000	904	523	65	387.1	57.8	5.8
16年1月期	27,000	814	527	65	390.2	64.7	▲0.4

※16年1月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	永森 信一	766,500	50.04
2	安田企業投資4号投資事業有限責任組合 無限責任組合員 安田企業投資	260,000	16.97
3	佐藤 直浩	245,000	15.99
4	松浦 崇	125,000	8.16
5	ネットワークード	37,500	2.45
6	萬歳 浩一郎	7,500	0.49
7	大嶺 議正	5,000	0.33
7	Celio Rossy	5,000	0.33
7	佐藤 正信	5,000	0.33
7	坂口 宣聡	5,000	0.33

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	佐藤 直浩
取締役副社長 ソリューション本部長	松浦 崇
取締役	萬歳 浩一郎
監査役(常勤)	鶴田 二郎
監査役	大嶺 議正
監査役	松田 英典

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering) : 新規株式公開。

※2 ブックビルディング : 引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。